

夕刊 東北日日新聞

本報は毎月二十日発行
郵税三銭
電話二二二二
石井町十番地
電話二二二二
日新印刷社
電話二二二二

北海道歸りの 大山委員長を迎へ

平町で新黨結集の大演説 説會開催せんと計画

再生の新勢農政中央執行委員は歸途是非大山黨首を迎へ員長大山都夫氏は北海道よ新黨結集の大演説會を平町の歸途来る二十日頃盛岡町地方に開催せんと目下奔走に立ち寄り新黨結集及び走中である云ふが之れが勢擴張に就いて演説をするために平署特高課では全く旨石城郡内郷村の某黨員神經過敏となつて居るに情報があつたので某黨員

小名濱商港修築 費支出年度割決定

六年度は三十五萬圓 十一年度に六十二萬圓

(東京電話)昭和五年度既定港灣修築費は一般に二割繰延べ節減となつたので内務省では年度割作製中であつたが十一日左の如く決定した

小名濱港

| | |
|------|---------|
| 五年度 | 一〇〇、〇〇〇 |
| 六年度 | 三五〇、〇〇〇 |
| 七年度 | 三五〇、〇〇〇 |
| 八年度 | 五〇〇、〇〇〇 |
| 九年度 | 五〇〇、〇〇〇 |
| 十年度 | 六〇〇、〇〇〇 |
| 十一年度 | 六三六、三〇〇 |

小名濱港

節減額 査定額
總額 三三三、〇〇〇
國庫 一三三、九四一、六六六
地方 一九七、〇五八、三四四

久ノ濱町に 轢死体

身元全く判明せず
双葉郡久ノ濱町字田網地内
常磐線線路に年輪四十歳前後他動力、取付、休燈、廢爐、電

苦し紛れに 窃盗を働く

同僚の懐中から
石城郡内郷村大字宮城城炭礦坑夫伊達郡半田村生れ片寄喜市(二〇)は十二日午後十一時頃同村宮城城に於て活動寫真見物中隣席に於て湯本町八幡坑夫村田清一の所持金三十圓を窃取したのうけたが同人は十数年前妹と共に親達に捨てられ各地を流浪の末炭礦坑夫として

十六燭の八十錢を 七十錢に値下げ

決定した要求案の一部

平町に於ける電燈値下げ問題球交換等にも相當影響して題は屢報の如くであるが昨居る事であるが同案は近く十二日の委員會に於て決定招集される(明後十五日の町會には提案されぬ模様)

大要は 現在の十六燭 光を水戸市に於ける料金同 様の七十錢にしメートル制 部電燈に値下げの交渉を開 始するものである

同意見を 求め直ちに東
和歌 俳句 詩

酒田の本間家は 相続税が二百萬圓

貧乏人は目を廻す様な ウソの様な本當の話

此の二、三年間東北の大富める間と死んで行つてからた光彌氏が相続した時相続財産額も大きく従つて税額も相次いで倒れる宮城縣は金の光り物といふらし税について税務當局との間も高く全く以て東北始つての貨殖王であつた齋藤氏秋の間の戸籍の書替へも役たが第一資産である同族會は明かして何れ調査終了まで田切つての大地主池田氏鶴との間の戸籍の書替へも役たが第一資産である同族會は明かして何れ調査終了まで岡の五百萬圓は下るまいと目の戸籍吏である死神だけ此の特株のいふ風聞氏をそれから東北一の酒田の本間光彌氏と今の世の中は金の世の中といふ地獄の沙汰も

便所の中で産氣づき 便ツボへ産み落す

墮胎でないかこの風評専らて 平署から係官急行調査

警備村藤原三井炭礦後山婦養養キヨ(一七)假名は妊娠八ヶ月の身重であつたが十二日午前八時頃便所に入った際俄かに陣痛を催し遂に嬰兒を便所の中に産み落したのでえい兒は直ちに死亡したが墮胎したのではないかと風評専らなので平署では係官出張墮胎過失かに就て調査中であるが墮胎ではないらしい

十六日頃には 一寸晴れるが

それとも永續きはしない
當分はこんな空模様
小名濱測候所小磯所長の談
録入期を控へてゐる石城地こと畑作の手入れにも事欠方の農村は恰も五六月の梅く始末で一般から非常に憂雨時の様な昨今の氣まぐれ慮されて居るが十三日小名陽氣續きに録入れば勿論の濱測候所に此の天氣が何時石城郡農會役員會は十三日

平町の 名簿縦覽者 極めて少數

平町では九月十五日現在を以て衆議院並に市會議員有権者名簿を作製する五日から十九日まで十五日間名簿縦覽を行つてゐるが縦覽者は極めて少數不成績な爲め選挙に際し不都合の生ずることがないとも限らぬの有権者は期間中に是非縦覽されたいと

社民黨委員會

社民黨石城支部の擴大委員會は十六七日の頃平町南町事務所において開催する

急募

十三四歳以上の印刷習工三名至急募集

本社印刷部
西洋料理
電話四六〇番

